

# JISS

The Japan Institute of  
Scandinavian Studies

No. 319  
2001/1

発行所 社団法人スウェーデン社会研究所 〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1 (株)科学新聞社内5階 TEL03 (5776) 1835/FAX03 (5776) 1836  
発行人 松元さざり Publisher&Editor Sagiri Matsumoto 編集責任者 川崎一彦 Editor in Chief Kazuhiko Kawasaki  
デザイン ワンバイワンステイション 印刷所 東友印刷 2001年1月25日発行 No. 319



新しい世紀を迎えて/JISS Lecture Ecological life in Sweden スウェーデンエコロジカルな暮らし/世界で最も愛されるビートルズ・トリビュートバンド レニーペイン/ロンネビー通信Ⅲ～晩秋:一期一会の茶会【後編】/ルンド滞在記/スウェーデンの新聞を読んで/Japan Calendar/EVENTS OF NORWAY/EVENTS OF FINLAND/Movie/Music/Web site/JISS INFORMATION



## 新しい世紀を迎えて

(社)スウェーデン社会研究所理事長 松前紀男  
Chairman Dr. Norio Matsumae

社団法人スウェーデン社会研究所は、創設以来、今年で満33年目を迎えます。

その創設の理念は、19世紀以来辿った大国に歩調を合わせる事なく、平和と国防を調和させながら、独自の発展を遂げたスウェーデンを対象とし、日本の歩むべき道を究明することでした。創設時から比べると、今日の世界は大きく変貌致しました。しかし日本の現状を考えると、益々『国のあり方』に対する研究と、それを考えるための様々な素材の提供を通して、社会への働きかけの必要性が求められていると思われます。昨年亡くなられた故小渕前総理が、『人間の安全保障(ヒューマンセキュリティ)』という用語を用いられたのも、アメリカと異なる北欧の国々を視野に入れた、たしかアイスランドでの発言でした。ご承知のように、近年の新しい科学の方向性として、20世紀の反省から、あらゆる分野が領域を越えて関連しあうべきことは、今日的課題となっています。このような視点にたつて本研究所も、対象を自然科学の分野にまで広げ、また地域的にも国から圏域までを視野に入れ、世界の新たな動向の把握に努めることに致しました。

昨年春以来われわれが努力してきたことは、21世紀を迎えるに当たって、公益法人として足場を堅固なも

のにすることでした。臨時総会では、岡野加穂留理事に設立時の経過をお話いただき、それをふまえて今後の方針をご相談致しました。その為には、定款の整備と経済基盤を確実なものにしなければなりません。定款の整備案は、臨時総会を経てただ今外務省で検討されており、今後意見のやり取りをしながら確定されてゆくものと思います。一方会員については、長らく未処置のままになっていた件を一挙に整理するとともに、新たに多くの法人会員と、活動に積極的な個人会員をお迎えすることができました。特にモバイル分野で世界をリードするフィンランドのNokia社や、響きの良さで世界から注目されている札幌コンサートホールKitara等、情報から文化まで、幅広く入会していただきました。また以前からの法人会員となっている金融機関に加えて、大手の銀行や多様な分野の会社に数多くご加入いただいたことは、この難しい時期にもかかわらず有り難く、心から感謝を申し上げる次第です。

何れにしても、企業の社会貢献のひとつとして、本研究所の活動にご理解を示していただいたものと思ひ、関係者一同、大きな責任を感じております。今後とも、どうぞよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

JISS Lecture Ecological life in Sweden

## スウェーデンエコロジカルな暮らし

スウェーデン消費者連合会員 アキコ・フリッド  
Swedish Consumer Coalition Member Mrs. Akiko Frid

2000年11月18日(土)、「スウェーデン・エコロジカルな暮らし」と題した講演会を開催した。スウェーデン南部オスビー在住のアキコ・フリッド氏を講師にお迎えして、スウェーデンとに拘らず地球に住む一人の人間としての生きるヒントを、様々な要素を織り交ぜてお話いただいた。現在スウェーデンは、環境先進国といわれるゆえんか、会場には環境問題などに興味のある参加者でほぼ満席の状態であった。

まず、アキコ氏がスウェーデンに在住するきっかけとなったお話から始まり、現在積極的に取り組んでいる活動の「遺伝子組み換え食品問題」に関わるいきさつなどを述べた。

タイトルである「エコロジカル」という言葉は誰でも一度は聞いたことがあると思うが、それぞれ人によって捉え方は違うだろう。アキコ氏が考えるエコロジカルとは、「自分と向き合って自然と共に生きる」ことで

ある。スウェーデンで暮らしていると、環境面に力をいれ、また国民一人ひとりも自然と環境に気を配っているような印象を受ける。エネルギー問題にしても、原発を廃止することを決定し、今は電力の元を自己選択できるようになった。電気というものが様々な方法から送られてくることを自然と知ることが出来た。

また、スウェーデンは離婚率が50%を超える国である。離婚した親に新しいパートナーができると、子供はその親との関係を、親子というよりも近い友人同



数多く寄せられた質問を読む講師

士という風に捉えていかざるを得ないという話しを聞いたことがある。子供にとって、そのような環境に対応していくのは容易いことではないだろう。

スウェーデンでは1960年代に、日本では昨年ピルが解禁された。ピルを服用することによって女性は常に自分の体に妊娠しているという錯覚を与える。これは、一番身近な自然である自分の体に嘘をつくことである。服用している女性の中には身体的副作用だけでなく、精神的副作用を起こす人がいる。しかし、彼女達はこの現象は自分だけに起こっているのではないかと考え周囲に相談することを、これまでほとんどしなかった。日本の産婦人科医の中には、ピルの解禁を「女性の解放」と言う人もいるが、スウェーデンの人たちは、「ピルは男を解放した」と、言っている。スウェーデンでは、ピルが氾濫しているが自分の体は自分で責任をもって守る事が大切である。

環境問題を含め生きていくうえで、自分で気付いた事を少しずつでもいいから行っていく。そして、“私一人がやっても何も変わらない”という考えを捨て、“私一人から何かが変わる”、と自覚する事が必要ではないのだろうか。

アキコ氏のお話を聞いていると、日頃失いかけてい



参加者の皆さん

る他でもない、自分への興味を持つ事が出来る。自分とは何だろう、なぜ日本人として生まれてきたのか、その様な事が興味深く思えてくる。自分の直感を信じる事は、つまり自分自身を信じる事である。その自分の魂の導きに素直に従う事により、本当の自分へと出会う事になるだろう。そのような事を再認識できた時間であった。興味のある方は、「スウェーデンからこんにちは」アキコ・フリッド著（上毛新聞社出版／定価1,500円。JISS事務局では割引価格にて販売中）を一読することをお勧めする。

Live Report SWEDISH HOLY NIGHT 2000 featuring LENNY PANE

## 世界で最も愛されるビートルズ・トリビュートバンド レニーペイン

インターネットを活用したアーティストプロモーション業務を展開するLIVECAFE (<http://www.livecafe.co.jp>)の主催により、ビートルズのトリビュートバンドとして世界的に著名なLENNY PANEによる初ライブが、2000年12月15日～17日の3日間にわたり、スウェーデン大使館にて開催された。

スウェーデン（イェーテボリ）出身の4人組であるLENNY PANEは、ビートルズの楽曲を忠実に再現することをテーマとして、北欧をはじめ、ヨーロッパで毎年開催されている「The Beatles Convention」からの正式招待をうけ、100曲以上にもおよぶ幅広いレパートリーの中から15曲を披露し、地元のみならず世界各地より集まったビートルズマニアやマスコミから非常に高い評価を受けた。

すでに日本においても、ビートルズマニアと呼ばれる熱狂的なビートルズファンを中心に評価が高まっており、来日が待ち望まれていた。

「Love me do」からスタートしたライブは、アットホームな会場、そしてバンドのメンバーの暖かい人柄が反映してか、和やかな雰囲気の中、3回のアンコールにもこたえ、あっという間の90分間であった。まるですぐ目の前にビートルズが舞い降りてきたような、そのような気がしたのは私だけではないだろう。



LENNY PANEのメンバーたち

また、今回のライブをもって、ベースのマットインとドラムのヤコブが脱退、今後は新しいメンバーを補強し、新生LENNY PANEとして再開するそうだ。

(Text:Matsumoto / Photo:Nakajima)

### 『ABBEY ROAD LIVE!』

定価 ¥2,000円

アルバムに関する詳細は、ソルベグ（有）  
渡辺まで。(Tel / Fax 03-3452-1730)

## 晩秋：一期一会の茶会【後編】

彫刻家・スウェーデン国立美術家協会・彫刻家組合会員 中林ヘルグレン富紀子

Bildkonstnär Mrs. Fukiko Helligren-Nakabayashi

黄葉した撫の森を遙か前方に望む長大な矩型を支える柱に、掛け花として垂れ紫檀、白菊と接骨木の朱の実をあしらい、軒端に釣した南部風鈴は、一期一会と書いた短冊を閃めかし、時折澄んだ響きが静寂を破る。

書は、星霜を経た左側の板壁に巾1.8メートル、長さ1.7メートル(障子紙2枚)に『般若心経』を写経したのと、もう一点『心』を張り、更に正面を床の間に見立て『只座喫茶』を張り、その前に薄縁を敷き点前座とした。この書に対峙して吉祥日に因み、明治時代作の逸品で、『高砂屋・電話三十二番』金亀印のマークの入った一弁二合入りの徳利を置き、これに篠竹と楓の枝に紫紅色の大輪の菊花、根締めは黄菊を添えて活け、楓の一枝を床にあしらい紅葉を散らす。

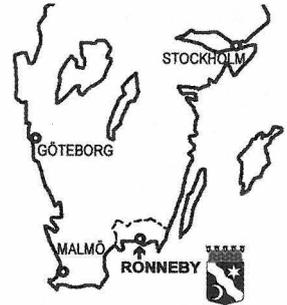
道具組は風炉釜を振った陶器の釜に、楽焼きの水指し、朱の棗、焼き、色、形を異にした五客の茶碗と、抹茶色の地に花鳥風月と書かれた扇形と、芥子色に焦茶をあしらった渋い色合いの八客分の小皿、その他に主菓子は鎌倉彫りの盆に羊羹とカステラを配し、その上に紅葉と竹の一葉を飾り、竹箸を添える。正面の壁に続く出口の床に大振りの赤松の枝を置き、国旗の色をもじって紫と黄色の野の花を活け床に紅葉を散らし、偶然見つけた白樺の切り株を赤松と配し外露地に立てる。御一行の皆様をいざない、篠竹の茂みに添って疏水に掛けられた鄙びた趣きのある板橋を渡ると、入口に常磐に托して、黒松の一枝に日瑞両語で歓迎の言葉を書いたカードを釣し遠来の賓客をお迎えする。不本意ながら、以上が私の慶祝の気持ちをこめた茶席の設である。

17名もの来賓を迎え、茶席はにわかには生きずいた。「改めて御挨拶させていただきます。茶道とは単に作法、形式ではなく、持て成す心です。礼節を持して主客互いに尊まい、生きて、御縁あって此処に会した一刻を感謝し、宇宙、自己、他者のいのちを一碗の中に視、只座して喫する—それを体験していただければ望外の喜びです。短い時間で亭主、後見を兼ねますので何かと不行届き、お見苦しい事も生じると思いますが、異国での略式茶会も又一興と思召して何卒御容赦下さり、まずはお寛ぎ下さいませ」とスウェーデン語でも説明した後で、点前座に下り、四客分を点てる。正客の安藤氏、次客以下の方達は腰掛け菓子を召し上がり、連客の方達は三々五々と連れ立って設えを拜見されたり、思い思いに庭園を散策されている。白木の盆に載せて運ぶ、志野、織部、楽、瀬戸、焼きもそれぞれに、型も碗型、平茶碗、筒茶碗に点てられた薄茶は、自ずからその型に沿って、撫の若葉の様に瑞瑞しい緑は勾やかにふっくらと盛り上がり、それ自体が幽寂な風光を秘めた一円相を映している。

まず待ち兼ねておられる正客、以下の皆様に茶碗の扱



茶を点てる筆者



ロンネビー所在地



筆者が催すお茶会

い方、茶の戴き方を示しつつ、その意図を話し、見物されている青い目の客人にもスウェーデン語で説明する。御一行は茶会が終わるとその足でマルメに向い、帰国の途につかれるのだ。炒りたつ様な焦りの反面、私は点前座に座すと、只この空間の中に天と地と一枚に成ったようにゆったり独座し、持て成す時は懐しく客人一人ひとりのいのちと向い合うが、座しつつ、時折り穿つように空を凝視する。寂の中に移ろう風の足音を、無明の闇の動きを聴いているのか、その正体までは識らない。時間が貪婪な借金取りの様に迫ってくる。一通り行き渡り、私は大急ぎで労作の折鶴を取り出し、由来を話した。そして情を知る賓客は自参した色紙に寄せ書きをしていただき、市長にお贈りしたいという私の希望を叶えて下さり、その間に旅情のお慰みにと歌暦を綴った。

『雪割草』『早春賦』春—そして『城ヶ島の雨』—「般若心経」「心」の書を背に歌いながら、改めて茶を喫した客の観点に立って錦織りなす雄大な空間と向い合った。

悠々と時を刻む流れの中で、天と地・人が一体と成り、解き放された豊饒な空間に座して茶を喫する客は、その自然の一部であり、庭であり、茶室だった。まさにこれは「白雲を蓋となし、流泉を琴となす」の風光であり、『不増不減』の世界が此処に展開されていたのだ。

「春の麗の隅田川」—『時』に棹すると走馬灯のように、この出会いまでの一刻が脳裏を駆け巡る。私は心から持て成したいというやむにやまれぬ想いが、勢いあまって階段を踏み外しつつも、関わって下さった方達が、その綻びを繕って助け起して下さり、共に此処まで昇って来て、初めて開けた展望であり、そう、鈍包丁は砥石によって研がれ組の上に置かれた。目を開

けて下さったのは私の母国日本、岐阜から来られた賓客の方々なのだ。この厳粛な事実襟を正して、恩人のお一人ひとりに目を向ける。内省するように、床に目をやりじっと聴き入っておられるお姿に、ふと、私がパンフレットに書いた結びの一桁を思い出した。『この宇宙生命の充滿している沈黙の世界は、我々が、“真の自己”と出会う場所でもある』茶の心を喫した今、思い思いに歌の翼に乗って、心の琴線を掻き鳴し、即今、三世（過去、現在、未来）と向い合っておられるのだなあと思った。そして、私も。画竜点睛—その利那、北欧の大自然は賓客の客人に、そして私に馳走したのだ。樵の森、その錦の天蓋を縫って瑞気のように一条の陽光が射し込み、夕映えのこの寿ぎに天も地も人、茶席は華ぎ、やがて、その華麗な緞帳を下した。とっ、閃光は私の中に蠢いていた無明をも粉碎した。

庭園に据えられた私の彫刻は、大自然と石とが意匠をこらし、只、私は命じられるままに彫った。同様に、この茶会の亭主は、何億年もの生命力を沈潜されたこの沈黙の世界、宇宙空間で、私は只、一碗の茶を持って成された来賓に連なるひとりの客なのだ。

今、初めて、茶の奥儀の片鱗に触れたのだ—と悟った。だが、畢竟如何？—何でも無い。

頌歌、そして生命への讃歌をこめて、「舟は往く往く通り矢のように、歌は船頭さんの心意気」—歌声は余韻を残しつつ、虚空に静寂の中に消えてゆく。

そして—惜別の時が来た。日本の国旗を振り艶やかな白地、真中に朱の一字、友、光芒のようにそれを囲む達筆な署名、かけがえの無い一刻を共有し、記念にと置き土産を残して。一期一会、只座喫茶、只感謝。

#### ◆ 後記

世阿弥は『風姿花伝』の中で、『初心忘れずべからず、命には終りあり能には果あるべからず』と記しています。それは私にとって、実生活と『芸術』という鬼の面の間で、余儀無く相剋を繰返しつつ遍歴する事を意味し、それ故に、私の人生には自己との孤独な戦いの途上で、ふと、光芒を放つ人との出会いがあり、それに触発され更に、『果てあるべからず』道に一步を踏み出すドラマが繰り込まれているのです。

今回、ドラマの主人公は岐阜県ITビジネス連携構築北欧ミッション団長、安藤隆生氏をはじめ来賓の御一行でした。ありがとうございます！懐かしい祖国から来られた皆様は、異国で、芸術家としてひとりの人間として生きる厳しい現実、ともすれば挫けそうになる私に対して、心の杖を、力を下さいました。更に、未熟な私にかけがえの無い生命の触れ合いの場を与えて下さった、市長、市公園長をはじめ、関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。初心にかえり皆様の温かい御鞭撻に報いるべく、一層精進する事を改めて心に誓いました。

#### ◆ 結びにかえて

『素晴らしい茶会を岐阜からの来賓の皆様と共に催

して下さり、深く感謝致します。簡素な小屋を見事に設え、諸事にわたって行き届いた心遣いをされた事に対して、賓客の方々のみならず、報道関係者も高く評価しておりました』ベルティル・アルバートソン氏（ロンネビー市コミュン産業経済部部長）の礼状より（2000年10月25日付）

#### ロンネビー市を訪問して



左よりロンネビー市市長：バルムクヴィスト氏、ロンネビー市コミュン産業経済部部長：アルバートソン氏、ペーター・リンダル公園長

ロンネビー市は、ストックホルムから飛行機で1時間弱のバルト海に面した街である。

ロンネビー市民の心のオアシスである広大な公園を、昨年12月22日に訪れ、ペーター・リンダル公園長自らにご案内いただいた。公園内には、デンマーク在住の芸術家、スヴェン・イングヴァル氏の提案により設立され、また、筆者である中林富紀子氏の作品も置かれている日本庭園を筆頭に、人口滝、数々の池、春には無数の花が咲き乱れるバラ園、無料で利用できるバーベキュー広場や国内最大級の国際会議場などがある。公園内の森には、強風のため多数の倒れた木々がそのまま放置されている。公園長にお聞きすると、「木を取り扱う事で、そこに生存している虫たちの場所がなくなってしまうから、そのままにしている」との事だ。自然に負担をかけることもなく、それを活かすスウェーデン人ならではの発想はさすがである。

前号でご紹介したソフトセンターには、ロンネビー市コミュン産業経済部部長、アルバートソン氏にご案内いただいた。ロンネビー市は、スウェーデン国内のIT発展に一躍担っている街である。至るところでIT関連の企業が見られる。親日都市であるロンネビー市市長、バルムクヴィスト氏にもお会いできたことも光栄であった。今年、「日本ウィーク」と題したイベントを、1週間に渡り開催の予定だそう。ロンネビー市と日本の交流が、今後もっと頻繁に行なわれ、JISSがその橋渡しになれば幸いである。

最後に、多忙な時間を割いて、今回の訪問の全てにおいて協力して下さいました、リンダル公園長に心から御礼申し上げます。

さらに、ロンネビー市を訪問するきっかけを作って下さった、中林富紀子氏に心から感謝を申し上げます。

Tack så mycket för allt!!

興味のある方は、以下のサイトにアクセスしてください。

[www.ronneby.se](http://www.ronneby.se)

[www.softcenter.se](http://www.softcenter.se)

(Text / Photo: Matsumoto)



## ルンド滞在記 <1>

矢幅さやか  
Ms. Sayaka Yahaba

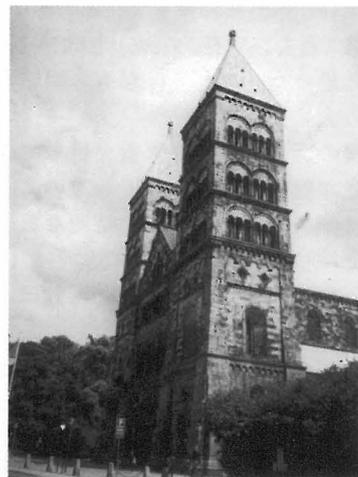
2001年1月より6月まで、スウェーデン南部ルンドにて、スウェーデン語を学ぶことになりました。約半年間の滞在記をお便りします。

スウェーデンに興味を持ったのは、今から3年ほど前。通っていたインテリアスクールで見た映像がきっかけでした。普段はオソロシク優柔不断な私が、その時何かこの“自然環境と高齢者に優しい国”にピンときて、語学を学び始め、その後会社を辞め、現地語学学校のサマーコースに参加。そして今、こうして再び北欧の地を踏みしめているわけです。

北欧の冬。出発前「寒くて、暗くて、夜が長いぞ」と友人に何度も志を試され(?!)しましたが、到着当日は、なんと8℃!!(私にとっては成田の方が寒かった)「こんなに冬が暖かいと、春に大嵐が来るんだよ」とユースホテルのおじさんが心配していたくらいでした。しかし、それも数日のこと。その後は、毎日2~3℃を基準に針が揺れています。道路やまわりの木々が凍ると一面銀世界で、とってもステキです。毛糸の帽子をかぶり、童心に返ってツルツルすべりながら歩いてみたりして。心配していた“夜長”も慣れると気になりません。今は日の出8時、日没4時といったところでしょうか。日本の冬より少しだけ夜が長い程度です。もっとも、まだ完璧に時差ボケが治らない私にとっては、何時に明るくなり、何時に暗くなってもあまり関係ないのですが。

私の滞在している寮は、学校から歩いて約25分の所にあります。トイレ・シャワー付きの部屋(約8畳)で、キッチンとリビングは共同。1フロアに12部屋あり、私以外は全員スウェーデン人の大学生です。夜中に突然ものすごい大音響で叩き起こされたり、冷蔵庫に入れておい

たニンジンを食べられたり、まだまだこの場の「掟」に慣れませんが、面白そうな所であることは確かです。私の部屋は5階にあるのですが、寮にはエレベーターがありません。そして、らせん階段!35キロのトランクを抱えてきた初日は泣きそうになりました。寮の外壁工事をしているゴンドラを見つけ、



ルンドにある大聖堂

乗せてもらおうかと真剣に考えたくらいです。そんな私の刺すような視線を感じたのか、工事していたお兄さんが近寄ってきて、トランクをササッと運んでくれました。英語が話せないお兄さんと、スウェーデン語が話せない私。「困っているのなら手伝うよ」「ありがとう。でもとっても重いですよ」「嫌ならもちろん手は出さないよ」「いやいや、喜んで!お願いします」と、多分こんな会話が繰り返されたのだと思います。噂には聞いていたけれど、北欧の男性は本当に優しくてたくましい!!

ルンドに到着して2週間。まだまだ会話は難しいですが、現地学生との共同生活という恵まれた環境のもと、毎朝キッチンで出会った先生をつかまえては、あれやこれやと質問し楽しく学んでいます。次回は日常生活について、より詳しくお知らせします。

### Sweden Topic

## スウェーデンの新聞を読んで

北海道東海大学教授、JISS常務理事 川崎一彦  
Hokkaido Tokai University Prof. Kazuhiko Kawasaki

12月および1月のスウェーデンの新聞を読んでいて私がかもっとも注目したのは、携帯電話に関わる事件等の報道である。

日本でも次世代携帯電話(3G)の営業が今年始まるが、スウェーデンの事業者免許の審査結果が12月16日にスウェーデン政府の担当官庁(PTS)から発表された。免許を獲得したのは、4社だが、日本のNTT-DoCoMoに相当するTeliaが落選する、という信じられない事件がおこった。テリアは昨年民営化されたばかりだが、依然

国が7割の株式を持っている。また現在の第2世代(GSM)ではスウェーデン国内のシェアの6割近くを持つトップ事業者である。テリアのニーベルト社長は「こんな事件はスウェーデン以外の国では絶対に起こり得ない」と激怒していたが、私もそう思う。テリアの株価は急落し、担当の産業大臣の責任問題にまで飛び火している。ただ、これは、スウェーデンではまだ民主主義が機能している証拠とも捉えることが出来よう。

1月8日にはテリアは免許を取得したTELE2社と共同

で別会社を設立し、3Gに参入することを発表した。しかし両社のGSMのシェアは合計で8割にも達し、寡占の弊害も議論されている。

1月26日にはエリクソン社(携帯インフラの世界のトップメーカー)の2000年の決算が発表された。売上が27%、利益が75%上昇したにも拘わらず、株価が10%も下がったのは、携帯電話(端末)部門が162億スウェーデン・クローナというスウェーデンの産業史上最大の赤字

を記録し、撤退を宣言したからである。1月30日にはフィンランドのノキアの決算が発表された。売上は54%増、営業利益も48%増、携帯端末の世界シェアは30%で、一人勝ちの感があるにも拘わらず、株価は下落した。

エリクソンは1社で、スウェーデンの輸出総額の16%も占める。ノキアのフィンランド経済に占める比重はさらに大きい。両社の動向からは目が離せない。(参考資料 Dagens Nyheter <http://www.dn.se>)

Embassy of Sweden in Japan By Kaj Reinius-Press Counsellor

## Japan Calendar

在日スウェーデン大使館 カイ・レイニウス報道参事官  
<http://www.sweden.or.jp>

スウェーデン大使館ホームページのアドレスが変更になりました。

### ■スウェーデンEU議長国に

スウェーデンは2001年1月1日から、EUの主たる意志決定機関である欧州連合理事会(官僚理事会ともよばれる)の議長国を務める。大使館は、2001年前半の6ヶ月間、全てのEU関連業務をコーディネートすることとなる。中でも重要な任務は、2001-2010年の“EU日本関係についての共同宣言”とそれに伴ってのEU日本行動計画の準備を進めることである。これはスウェーデンが議長国を務める間に合意に至り、スウェーデンで5月に開催されるEU日本サミットで正式に承認されることが望まれている。

### ■2月25日～3月15日

#### 「アート展 “As if you mean what you say”」

スウェーデン現代アートシーンで最も名を知られているMr. Andreas Gedin他4名のアーティストと共に、インスタレーションを展示する。

場所:大使館展示ホール

詳細:大使館広報部 (Tel03-5562-5060)

### ■2月27日～3月15日「スウェーデン・ジュエリー展」

スウェーデンのジュエリーアーティストMr. Jakob Assarsonの作品集を紹介する。

場所:大使館エントランスホール

### ■3月3日～4日「スウェーデン子どもの歌コンサート」

スウェーデンの伝統的な歌が、セントラル愛知交響楽団と歌やダンスとの共演で演奏される。

場所:大使館オーデトリウム

### ■3月20日～4月11日

#### 「建築&陶芸ジョイントエキシビジョン」

王立工科大学建築学科の学生による展覧会。

場所:大使館展示ホール

### ■3月28日「北欧教会コミッティー “オープンハウス”」

今回のテーマは日本における救世軍の活動について。

場所:ノルウェー大使公邸

予約:Mrs Ingrid Susanne Farnar・E-Mail:[ingridf@gol.com](mailto:ingridf@gol.com)

(在日スウェーデン大使館ジャパンカレンダー-1,2月号より転載)

## EVENTS OF NORWAY

ノルウェー通信

ノルウェー王国大使館広報部

<http://www.norway.or.jp/>

### ■3月2日～4月7日

#### 「アーリング・ヴァルティルソン銅版画作品展」

3月2日～12日:ギャラリーアクシズ(大阪/Tel:06-6375-0017)

3月5日～17日:版画廊(東京/Tel:03-3571-8247)

3月10日～4月9日:ギャラリーアートグラフ(名古屋/Tel:052-762-6223)

### ■3月10日「ノルウェーの児童文学と女性文学」

講演:青木順子

場所:立川市女性総合センター・アイム

問合せ:立川市錦公民館(Tel:042-527-6743)

### ■3月26日～4月15日

#### 「瞳をひらいて 日本・ノルウェー友好子ども絵画展」

場所:こどもの城(東京・青山)

問合せ:大使館広報部(Tel:03-3440-2611)

(ノルウェー王国大使館ノルウェー通信より転載)

## EVENTS OF FINLAND

フィンランド・イベント情報

フィンランド大使館

<http://www.finland.or.jp/>

### ■3月5日～4月28日

#### 「ヘルシンキ・テレー湾プロジェクトに参画した8人の作家たち展」

場所:現代彫刻センター(Tel:03-5423-3001)

### ■3月2日「アコーディオントリオ・フラトレスコンサート」

プログラム:ムソルグスキー「展覧会の絵」

場所:武蔵野市民文化会館小ホール(問合せ:Tel 0422-54-2011)

### ■3月3日「アコーディオントリオ・フラトレスイン ロックコンサート」

プログラム:ディーパープル、スティング他

場所:武蔵野市民文化会館小ホール(問合せ:Tel 0422-54-2011)

### ■3月10日「ヨハンナ・ルサネンソプラノリサイタル」

プログラム:シベリウス他

場所:武蔵野市民文化会館小ホール(問合せ:Tel 0422-54-2011)

### ■4月4日「第2回日本フィンランドデザインシンポジウム」

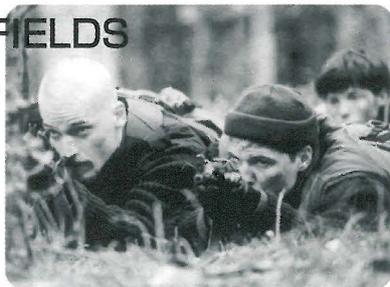
場所:第一ホテル両国(東京)

問合せ:日本フィンランドデザイン協会(Tel 03-3953-5653)

(フィンランド大使館イベントカレンダーより転載)

# Movie

## FOREIGN FIELDS



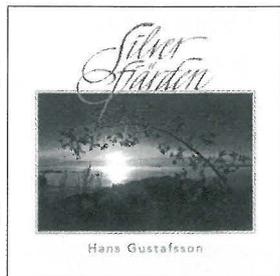
2月24日(土)より  
新宿シネマカリテに  
てレイト・ロードショー

『フォーリン・フィールズ』は、1999年のカンヌ映画祭で上映予定だったが、その衝撃的な内容から国際情勢を配慮し上映が見送られた“世界を揺るがすヒューマンドラマ”である。現代社会のモラルと、正義という名のもとに進められる戦争の是非を問うセンセーショナルなシナリオと映像が、ついに日本で公開される。大義名分でカムフラージュされた戦争の虚構を暴き、いま一度〈平和とは何か?〉を再認識させる問題作が、ついに日本解禁! 監督は、ドキュメンタリー製作から映画の世界に進出し、96年ベルリン映画祭で『Anton-The Flyer』で特別賞を受賞後、一躍有名になったデンマークの新鋭アーゲ・レイス。主演は、87年アカデミー外国語映画賞を受賞した『ペレ』で主役の男の子を演じ、ベルリンやLAの映画祭で最優秀若手俳優賞を受賞した実力派ペレ・ベネゴ。

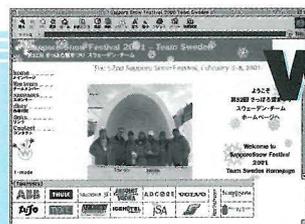
# Music

## Silverfjärden シルバーフィヨルド

Hans Gustafsson  
ハンス・グスタフソン  
SOL-0009 税抜価格2,700円  
お問合せ:ソルベグ(有)  
Tel/Fax 03-3452-1730



大自然のハートにふれた時の清らかさ、新鮮さを写し出すようなサウンドにあふれた作品。  
スウェーデンの自然から生まれた、潤いと癒しのナチュラル・サウンドが、上記他9タイトル発売開始!



## Web site

札幌雪まつりスウェーデン  
チームのホームページを紹介  
します。

<http://www.sapporosnowteamsweden.net/>

## JISS INFORMATION

### 上映会

映画上映会予定のお知らせ  
「ボクとママとおまわりさん」

本国のアカデミー賞にあたる「ゴールデン・バッグ」で最優秀長篇、監督、脚本、撮影の4賞を受賞を始め、ベルリン・キンダーフィルムフェスト、ポツダム国際子供映画祭のグランプリを受賞した作品。それぞれの夢が、思っていたのとは違った形で実現するという前向きな本作は、女性の作家、プロデューサー、女性監督によってキュートでかつリアリティーあふれる作品に仕上がった。ソルベグ(有)と共同主催にて、近日スウェーデン大使館オーダーイリアムで上映予定です。詳細は追ってお知らせします。

### 講習会

スウェーデン語講座  
103回目開講!!!  
2001年4月10日～  
7月21日(土) (全13回)

詳細は事務局までパンフレットをご請求下さい。郵便の場合は、必ず80円切手同封の上お願いいたします。(Fax、メール可)

### ◆ 新規会員の動向

<法人会員> (H12年11月～H13年1月) (株)港北、(財)札幌市芸術文化財団コンサートホール、秀和ビルメンテナンス(株)、(株)第一勧業銀行北沢支店、(株)東京三菱銀行新宿新都心支店、(株)新生銀行、東海建設(株)、(株)富士サービス、望星サイエンス(株) (9社)

<個人会員> (H12年9月～H13.1月)

上松佑二、安部望、落合由紀子、小池浩一郎、加藤園子、里深文彦、福井信子、山下泰文、相原雪乃、大村聡、須永昌博、墨谷和則、前島巖 (13名)

<学生会員> 小山哲平、照屋亜月 (2名)

◆ 退会会員 (H12年9月～12月) 名称省略  
法人会員 (1社)、個人会員 (15名)

### 事務局より

### ボランティア募集!

スウェーデン語の翻訳を  
してくださるボランティアの方を募集しています。  
興味のある方は、事務局(松元)までご連絡ください。  
お待ちしております。

## The Japan Institute of Scandinavian Studies



(社)スウェーデン社会研究所 事務局(松元・Matsumoto)  
〒105-0013 東京都港区浜松町1-8-1 (株)科学新聞社内5F  
C/O Kagakushinbunsha, 1-8-1 Hamamatsucho, Minato-ku, Tokyo 105-0013 Japan  
TEL: 03-5776-1835 FAX: 03-5776-1836 E-mail: jiss99@tkg.att.ne.jp  
URL: <http://www.sci-news.co.jp/sweden/>  
月曜日～土曜日(水、日、祭日休) 10:30～17:30 Mon to Sat (Wed, Sun, Holiday close)

スウェーデン社会研究所  
ホームページ

<http://www.sci-news.co.jp/sweden/>